

井田川地区地域計画

(地域づくりのキャッチフレーズ)

「元気で輝く井田川」をつくる

(4つの基本的方向性)

自然と歴史を大切にするまち

地域のきずなを育むまち

誰もが愛着を持てるまち

安全安心に暮らせるまち



2020年5月

マイタウン井田川まちづくり委員会

地域づくりについての想い

井田川地区においては「マイタウン井田川まちづくり委員会」を中心に、平成18年より活発な地域活動を行ってきました。

今後も、この活動を継続していくために、地域住民の方々や小学生の子どもたちによるワークショップを行い、「井田川の未来」について考えてきました。

その結果、私たちが暮らす井田川地区は、緑と水に恵まれた豊かな自然環境にあることや、穏やかで融和な住民同士のきずながあることなど、たくさんの魅力を再確認できました。

また、これからも地域の魅力を高めていくためには、何よりも私たち自身が井田川地区に愛着を持つことが大切なことも分かりました。

一方で、水害や地震などの自然災害や、交通事故・火災・犯罪などに対して安全・安心な地域であることや、さらに少子高齢化に伴う人口減少や担い手不足など、未来に向けての課題も多く見えました。

こうした現状を踏まえ、「元気で輝く井田川づくり」に向けて、これからも皆で知恵を出し合い、様々な地域の課題解決に向けた取組が継続的に行えるよう、この計画を作成し、井田川地区の地域づくりの方向性を示します。

令和2年5月11日

マイタウン井田川まちづくり委員会

委員長 磯部 剛郎

1. 地域づくりのキャッチフレーズ

「元気で輝く井田川」をつくる

* 基本的方向性に沿った部会の目標

◇農業振興部の目標◇

井田川の子どもの成長を見守り、地域のきずなを深めること

◇地域安全部の目標◇

地域の絆を大切にし、このまちに住んで良かったと思えるまちづくりと、子どもを育て、安全安心に暮らせる環境を整えること

◇福祉部の目標◇

このまちに笑顔を広げよう

◇青少年育成部の目標◇

つどい、ふれあい、たすけあう

◇体育振興部の目標◇

スポーツを通して住民同士のつながりを深め、心も体も元気なまちづくりを行うこと

◇文化広報部の目標◇

井田川地区の歴史、伝統、文化、自然を発信し、守り、後世につなげてゆくこと

◇自治会連合部の目標◇

充実した防災体制づくりと町民一人一人の自助・共助の防災意識の醸成を図り、誰もが安全・安心を実感できる地域づくりを行うこと

2. 井田川地区の姿（地域カルテやワークショップから抜粋）

（1）地区のなりたちと人口

（鈴鹿市全体から見た位置と地勢）



地区旗



◇世帯数

801 世帯

◇人口

2,121 人

【地区旗】意味

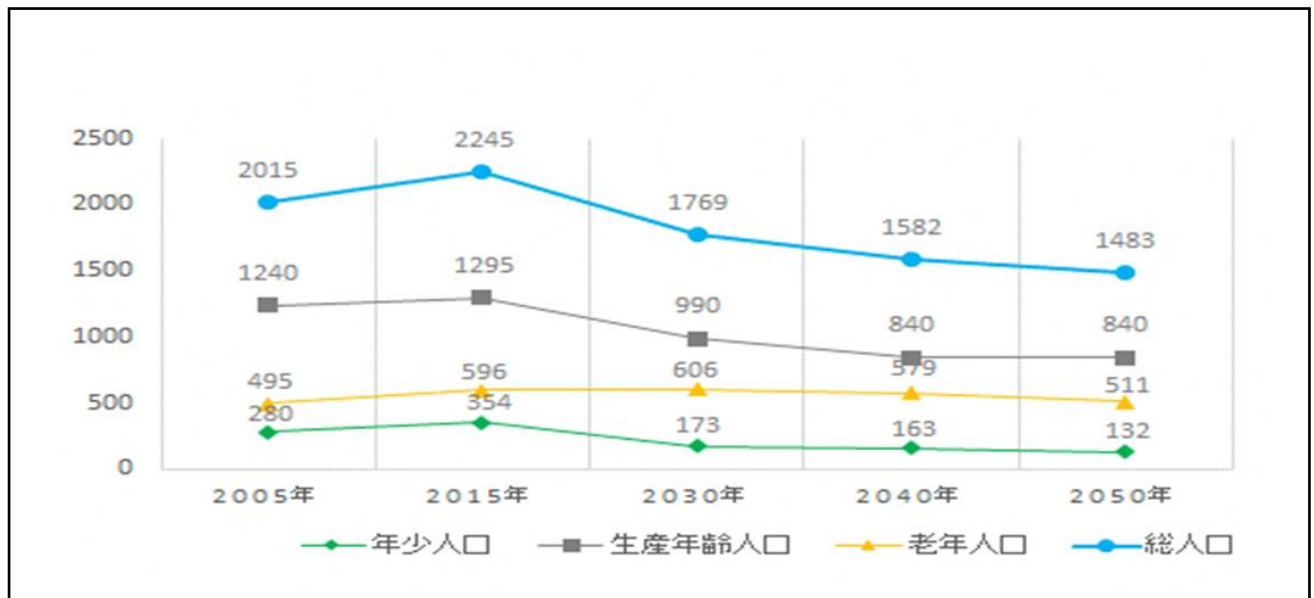
意匠〔四つ葉のクローバー〕

農業地帯をあらわすのに緑濃いクローバーを四つ葉に配置して、井田川の井桁に組んで四地区の親和をあらわした。

地色は「きいろ」。黄金の稲田を想起した。

（男性 1,081 人 女性 1,040 人）

※鈴鹿市HPより 2020年1月7日現在

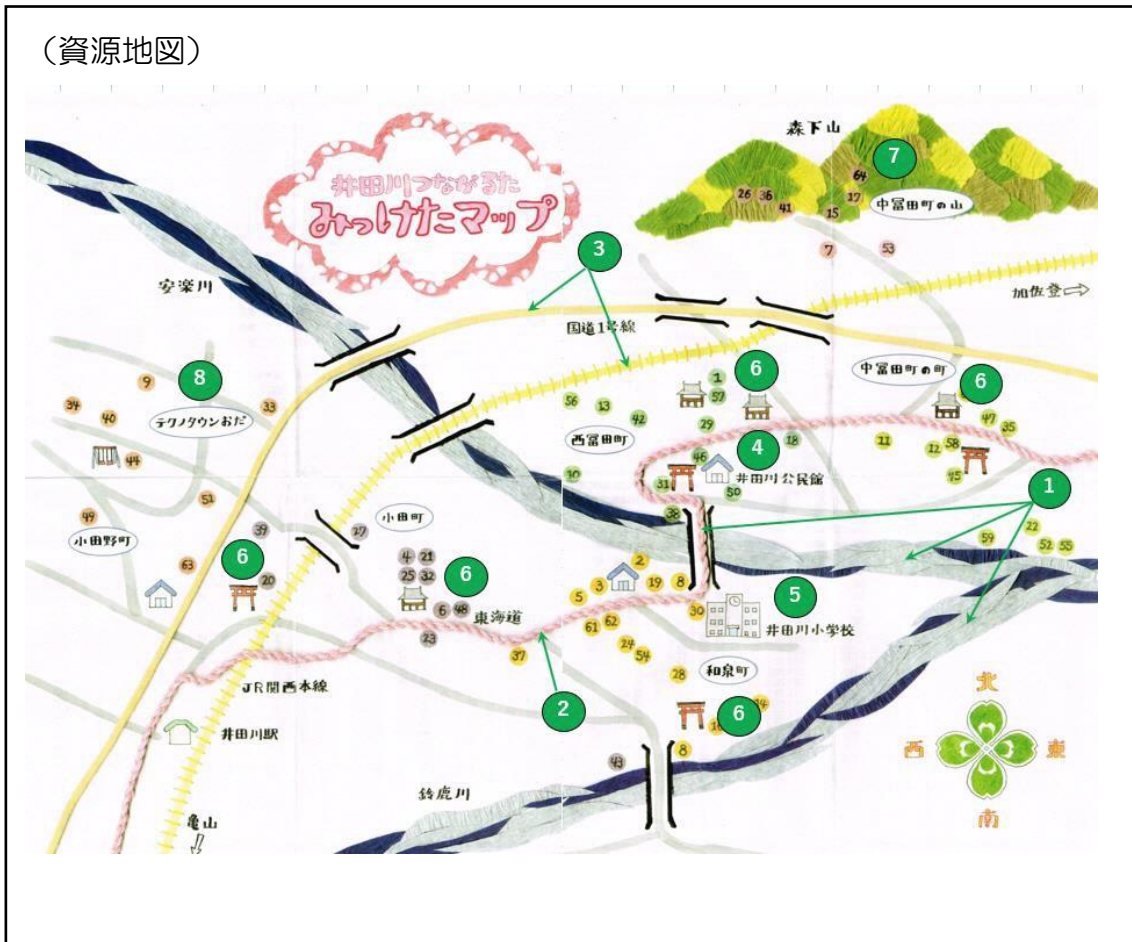


※2015年までは国勢調査結果による。

※2030年までは全国小地域別人口推計システム URL <http://arcg.is/1LqC6qN>（作者 青山学院大学 井上 孝 氏）

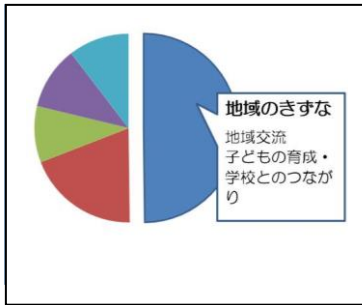
(2) 地域の主な資源

(資源地図)

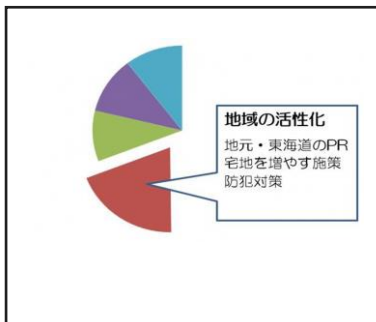


名称	内容
① 鈴鹿川・安楽川・和泉橋	一級河川の合流箇所、伏流水のめぐみ
② 東海道	ウォーキングされる方が多い
③ 国道1号線、JR 関西本線	古くからの交通の要衝
④ 井田川公民館	まちづくり委員会の活動拠点、災害避難所、文化センター
⑤ 井田川小学校	地域と共に子どもを育てる
⑥ 街道沿いの神社 仏閣	東海道と共に発達した地域住民の心の支え
⑦ 森下山の古墳群	古くからの定住地であった事を伝える遺跡
⑧ テクノタウン	市街化区域、現代的建物はモダン

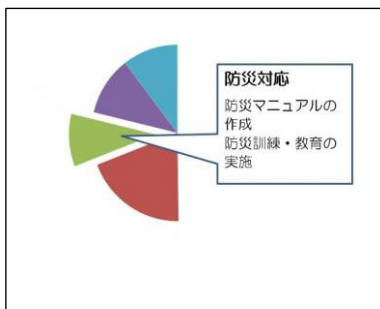
(3) 住民の意識 (ワークショップから抜粋)



地域で子どもを育てている。
伝統行事を守っている。
少子高齢化、担い手不足、
地域活動・自治会活動への影響。



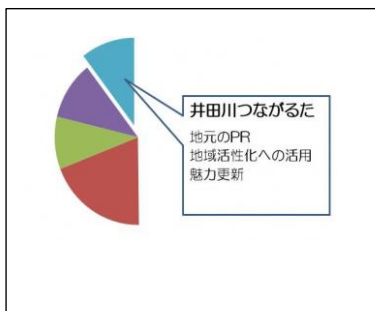
東海道、地域の宝を活かした地元 PR、
イベントの開催。
空き家活用の検討。



防災マップ・マニュアル(危険区域、避難場所の明
記、地域連帯の仕組み)作りと、防災訓練。



子どもの見守り活動の継続、推進。
高齢者イベントが盛ん。今後の見直しと改善。
公共交通利便性の改善、高齢者の移動手段確保。
認知症高齢者失踪対策。



地域住民が力を合わせて、井田川つながるたを作っ
た。
かるた利用で、地域活性化と、地元 PR の実施。
かるたの維持更新、普及拡大。

(4) 地域の宝物と課題 (ワークショップの結果から抽出)

わがまちの宝物

- ◇ 自然が豊か、風景が良い。
- ◇ 地域で子どもの成長の手助けをしている。
- ◇ 東海道が残っていて、歴史が深い。
- ◇ 人と人とのつながりが良く、伝統行事を守っている。
- ◇ 井田川つながるたで発見した生活文化などの様々な魅力。

わがまちの課題

- ◆ 後継者の育成、食育教育。
- ◆ 子どもたちの交通安全。高齢者支援とセーフティーネットの充実。
- ◆ 子どもの地域教育。地域世代間の交流事業。
- ◆ スポーツを通じた地域交流の活性化。
- ◆ 地域活性化の情報発信、部組織の改善・強化。
- ◆ 地域連携で防災システムの構築。
- ◆ 空き家状況の掌握と情報提供。

(5) 部会別方針と主な取組み

井田川小学校と食育活動の連携を目指します。	
部会	農業振興部
内容	小学校の食育支援として、野菜の種まきと収穫等を行い、食と農を結ぶ活動を推進します。 また、PTA・他部会との連携を図ります。

他部会と連携し、安全で安心なまちづくりを目指します。	
部会	地域安全部
内容	現状の活動を継続しながら、地区内の危険箇所を調査し危険マップを作成、対策の検討と実施を行うと共に、不具合箇所を見つけた際の連絡方法を確立し、危険箇所に対する住民の意識向上を図ります。

安全安心に暮らせるまちの向上を目指します。	
部会	福祉部
内容	住み慣れた地域で、いつまでも安心して生活出来るまちづくりを目的とし、幼児から高齢者の皆さんに楽しんでいただける事業を目指します。

地域の絆・子どもたちの健全育成を目指します。	
部会	青少年育成部
内容	従来の活動事業を見直し、他部門と交流し、地域連携でイベント事業を企画推進するなど、地域の融和と盛り上げを図りながら、新しい伝統行事として継続して行くことを目指します。

住民の交流と健康促進を目指します。	
部会	体育振興部
内容	<p>地域の現状を把握し、幅広い世代が気軽に参加できる事業を行い、世代間の交流を深め活気ある地域を目指します。</p> <p>その中で、多くの方に参加してもらえるよう、募集方法・ニュースポーツ種目・他の団体との協力などの柔軟な視点を持って取り組みます。</p>

持続性のある地域づくりを目指します。	
部会	文化広報部
内容	<p>ワークショップの結果より、次の3テーマを課題として各部と調整しながら方針と解決策を検討し、広報紙を利用して井田川地域の魅力を発信します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史、伝統、文化のあるまち 井田川地区旧跡と文化の魅力発信 2. 自然と環境の郷土色豊かなまち 住みやすい環境づくり 3. 「井田川つながるた」を活用した情報発信 かるたの存在と内容を地域内外に永く広めていく

いざという時に効果を発揮する防災体制づくりを目指します。	
部会	自治会連合部
内容	<p>地域の現状を調査した防災マップを作成し、それに基づいた防災訓練と、防災体制づくりに取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災マップの充実を図る 2. 防災訓練の実施 3. 防災体制づくり（活性化）

空き家情報の活用により、地域の安全と活性化を目指します。	
部会	自治会連合部
内容	<p>空き家の情報を把握し、空き家での犯罪・火災の防止と地域活性化の為に情報の共有を行います。</p>

～井田川の未来を考える会議～

井田川地区をこれからも住みよい地域にしていくための地域計画の策定に向けて、地域のみなさんで、住んでいる地域の宝物（残すべき・守るべき大切なこと）や課題（足りないもの・困りごと）について意見交換を行いました。ワークショップで、出された意見を地域計画に反映させました。

① 第1回ワークショップ 令和元年8月27日（火）

◆6班に分かれて、井田川地区の現状分析。宝物と課題を整理した。

【宝物】＊地域のきずな ＊地域で子どもを育てる ＊歴史・伝統のあるまち
＊自然を守るまち ＊井田川つながるた

【課題】＊災害時の対応 ＊少子高齢化 ＊法令の規制 ＊担い手不足 ＊宝物の発掘
＊生活環境 ＊交流の場が少ない ＊交通の利便性 ＊行事の整理が必要

② 第2回ワークショップ 令和元年9月24日（火）

◆住みよいまちを目指すために「宝物を残していく方法」や「課題の解決方法」について各班で話し合っ、優先順位を付けて整理した。

＊地域のきずな → ①地域と学校とのつながり②交流の活性化③地域全体での行事の実施

＊地域で子どもを育てる→①子どもを見守る取り組みがある②子どもの見守りに温度差がある
③自治会活動への子どもの参加

＊歴史・伝統のあるまち→①お祭り・町民運動会の継続②旧東海道の活用③空き地・空き家の活用

＊自然を守るまち → ①自然散歩・ウォーキング②珍しい植物の紹介・活用③東海道の魅力発信

＊井田川つながるた → ①みんなで使って広める②内容をバージョンアップする

＊災害時の対応 → ①危険箇所の洗い出し②本番さながらの訓練③自主防災の活性化

＊少子高齢化 → ①住民同士の支え合い②子どもの学習推進③子育て世代・高齢者の居場所

＊法令の規制 → ①規制緩和②個人情報③行政による対策

＊担い手不足 → ①役員の負担を軽くする②会長任せの体制を変える③古いやり方を今どきに

＊宝物の発掘 → ①歴史の再発見②楽しめる空間を作る③豊かな水を生かす

＊生活環境 → ①防犯②ゴミ対策③景観改善・防災対策・高齢者への生活支援

＊交流の場が少ない→①交流の場を増やす②鮎の放流やお祭り等の行事を増やす

＊交通の利便性→①年寄りの交通手段②ボランティアによるシステムがない③渋滞が多い

＊行事の整理が必要→①行事の棚卸が必要②行事内容の見直し③行事役員の負担が大きい



～井田川小学校まちづくりワークショップ～



① 第1回ワークショップ 令和元年9月4日（水）3～6年生

- ・「井田川つながるた」を通じた地域への思い〔カルタ部長〕
- ・鈴鹿市が進めているまちづくりについて説明〔地域協働課職員〕

② 第2回ワークショップ 令和元年10月25日（金）5・6年生

- ◆7班に分かれて、井田川のステキなところ、課題を考え、10年後〔大人になったとき〕に住みたい井田川についてキャッチフレーズや自分たちが出来ることを考えました。

【キャッチフレーズ】

- 1班：うれしいな 山が見える 井田川だ
- 2班：病院や交番などがあり安心安全な井田川
- 3班：自然が豊か ゴミがない そんな井田川目指したい
- 4班：井田川地区の色々な行事 ししまいや盆踊りなど たくさんあるよ
- 5班：安心安全で きれいな地域で みんなの仲が良く 行事がたくさんあるよ
- 6班：笑顔あふれるスマイル井田川☆
- 7班：自然も歴史もある井田川

【10年後に住みたい井田川】～自分たちが大人になったときに住みたい井田川～

- 1班「自然が豊かで、事故・事件がなく、生き物が住みやすく、ポイ捨てのない井田川」
- 2班「施設が充実していて自然が豊かで安心できる町」
- 3班「ゴミがなく、自然が豊かで、行事もたくさんあり、ボランティアの人も多く、平和な井田川」
- 4班「地域の行事を大切にする町」「地域の方々との交流がずっと続いていく町」
「今あるお祭りがずっと続いていく町」「ゴミがなくきれいな町」
- 5班「きれいで安心・安全な井田川」「行事が続いている井田川」「みんながふれ合える井田川」
- 6班「サッカーコートがある井田川」「近くにお店がいっぱいある井田川」
「けんかがなくなる井田川」「ポイ捨てのない井田川」「空気がきれいな井田川」
「地域の人がやさしい井田川」「自然が豊かな井田川」
- 7班「人口が多い井田川」「地域の行事が続いている井田川」「自然が豊かな井田川」

【10年後に住みたい井田川にするために、わたしたちができること】

- ・自ら積極的にごみを拾うこと ・安全に気をつけて遊んだり、自転車に乗ったりすること
- ・困っている人がいたら助けること ・積極的に地域の人に挨拶すること
- ・地域の行事に積極的に参加すること ・地域の人ともっと積極的に交流すること
- ・自然を大切にする事 ・今ある歴史を守っていくこと ・助け合いをすること
- ・まず自分たちがけんかをせずに仲良くする ・ちくちく言葉をなくす

～地域カルタ「井田川つながるた」について～

1 カルタ制作の趣旨



マイタウン井田川まちづくり委員会では、井田川地区における地域づくりの一環として、鈴鹿市まちづくり応援補助金を活用し、地域カルタ「井田川つながるた」を平成30年度に制作しました。

このカルタには、住民自らがまち歩きをして、地域にある魅力や気づきをまとめたものが詰まっています。

きっかけは、平成30年3月に行った「井田川地元学」の取組です。地元学とは、地域の人が自分の暮らす地域にあるものを再発見し、発見したものを地域づくりに活用する趣旨の活動です。

井田川地区では、従来から行っている活動とカルタを結び付けて、地域住民の団結力をさらに高めながら、これからの地域づくりを行っていかこうと考えています。そんな思いから、「井田川つながるた」と名付けています。



2 「井田川つながるた」の概要



- ① 読み札64枚
- ② 絵札64枚（裏面は各絵札の解説書）
- ③ 地図兼案内書（井田川つながるた「みつけたマップ」）
 - ・表面：井田川地区の地図にカルタ札の場所を示したもの
 - ・裏面：井田川地区の概略や各町の紹介、地区の出来事をまとめた年表
- ④ 外箱井田川地区の地区旗にある四つ葉のクローバーの図柄を基に、地元の人がデザイン。
- ⑤ 数量 302セット

3 カルタの活用状況



井田川地区において、高齢者サロンや放課後子ども教室、マイタウン井田川まちづくり委員会主催の高齢者の集いなどで広く活用されています。地域の方から「懐かしい思いや新しい発見があったり、カルタの絵札と読み札を手にとって話に花が咲きます。」との話がありました。

また、井田川小学校でも授業に活用され、令和元年度の運動会では、組立体操で「井田川つながるた～人も川も何かと出会う町～」として表現されました。

高齢者サロン



井田川小学校運動会



～地域づくりとは？～

住みよい地域づくりのために、住民、自治会、各団体等が連携協力し、地域の知恵や工夫により、住民自らが地域全体の課題解決や地域の活性化に取り組むことです。

～地域計画とは？～

住みよい地域をつくっていくために、住民の皆さんが自ら立てる計画です。井田川地区にお住まいの皆さん自らが取り組み、地域の課題を解決する方法や地域を元気にする方法などをまとめたもので、地域づくりの指針となるものです。

計画の策定には、住んでいる地域の状況を把握し、整理する必要があるため、住民の皆さんが「住みよい地域」とはどんな地域なのかを考え、意見交換を行いながら作ります。